

今月の

逸品

NO. 67 2024. 2~2024. 3



所蔵品「ぽっぺん」



参考画像 (図1) 喜多川歌麿
「婦女人相十品・ビードロ(ポッピン)
を吹く女」

「ぽっぺん」

全体がガラス製の、音が鳴る玩具である。風鈴に柄を付けたような姿をしている。「柄」の部分は細い筒になっており、息を吹き込むと球体部分の底にあたる厚さ0.3mm程度のガラス面が振動して「ペコン、ポコン」と鳴る。吹き込んで鳴らすタイプと吸って鳴らすタイプの2種類があり、

その鳴る音から、「ぼべん」「ぽっぺん」などと呼ばれている。他にも時代や地域によって、「ぼこべん」、「ぼんびん」、「ぼこんぼこん」、「ちゃんぽん」とも呼ばれる。

極めて単純な玩具ではあるが、「日本人の感性にはどこかフィットする」らしく、江戸時代に中国から渡来して以来、広く庶民に広まった(西岡 2000,p.227)。有名なところでは喜多川歌麿(1753-1806)の浮世絵『婦女人相十品』の「ビードロを吹く女」(もしくは「ポッピンを吹く女」)に登場する(図1)。また葛飾北斎(1760-1849)の作品にも、ガラス職人がこの玩具を作る様子が描かれているという。

明治時代に関東や京阪神で流行したという記録もあり、東京では流行りすぎて明治20年代に製造が禁止され、大阪ではそれから10年ほど遅れてさらに大流行した。当時は「町中でポペン、ポペンと音がしていた」とのことである(同, p.227)。

神戸にある長田神社では明治以来、正月に福を招くという長さ35cm余りの瓢箪型ポッペンの音が鳴らされる(茂手木ほか 1998,p.54)。平成以降は「リバイバル」して全国の土産屋の店頭に並ぶようになったといわれている。そういえば筆者も中学生時代に修学旅行で長崎を訪れた折、自宅への土産品として買って帰った。その時には「ビードロ」という商品名であった。今でも実家のサイドボードのどこかに「陳列」されているかもしれない。ポッペンの底のガラスは非常に薄いので、鳴らす時にはちょっとドキドキする。しかし無事に鳴らすことができると、他では聴けないような、この玩具の愛らしい姿をそのまま体現するような、なんとも繊細な音を体験できる。旅先の土産物屋で見かけたら、購入して挑戦してみたいはいかがだろうか。

参考文献および引用原文：西岡信雄『楽器からのメッセージ：音と楽器の人類学』音楽之友社、2000年。

茂手木潔子ほか『おもちゃが奏でる日本の音』音楽之友社、1998年。

執筆者：樫下達也(音楽科准教授)

※附属図書館で展示しています。